

『御製増訂清文鑑』の漢字音

鋤 田 智 彦

1. 『御製増訂清文鑑』について

『清文鑑』(manju gisun -i buleku bithe)は満洲語語彙を収めた辞典である。まず満洲語語彙を満洲語で説明した『御製清文鑑』(康熙47年・西暦1708年)が作られ、続けてそれにモンゴル語の対訳を加えた『御製滿蒙合璧清文鑑』(康熙56年・西暦1717年)が編纂された。その後、増補を行った上で満洲語語彙に中国語の対訳を加えたものが『御製増訂清文鑑』(乾隆36年・西暦1771年)である。満洲語語彙には漢字による注音が、対訳漢語には満洲文字による注音がそれぞれ行われた。本書の性格上、漢字は規範的な字音に基づいていると考えられる。本稿では漢字に加えられた音を示す満洲文字について概説し表にまとめた。これにより当時の北方語音の一端が明らかになることが期待される。『御製増訂清文鑑』にみえる漢字音の特徴については鋤田2019で取り上げた。本稿では声母、韻母についてそれぞれ簡単に説明する。

1. 1. 声母

声母については他の満洲資料における漢字音表記と同様、以下の19類に分けることができる。それらを表す満洲字もあわせて提示する。

/p/ b	/p ^h / p	/m/ m	/f/ f
/t/ d	/t ^h / t	/n/ n	/l/ l
/ts/ dz, j(i-)	/ts ^h / ts, c(i-)	/s/ s	
/tʂ/ j(i-以外)	/tʂ ^h / c(i-以外)	/ʃ/ š	/z/ ž
/k/ g, g'	/k ^h / k, k'	/x/ h, h'	/Ø/ y, w

満洲字表記上の特徴としては、『御製増訂清文鑑』以前の資料ではあまり見られないh'が用いられることが挙げられる。『御製増訂清文鑑』以前の資料における漢字音表記では/k/, /k^h/についてはa, oが後続する場合はg', k'が先行し、それ以外の場合はg, kが先行する。/h/では後続する母音字に関わらずhが先行し、h'が用いられることはほとんどない。それに対して『御製増訂清文鑑』では数は多くないもののa, oに先行するh'が見られる。このような特徴は同時期の『兼滿漢語滿洲套話清文啓蒙』(以下『清文啓蒙』)(乾隆26年・西暦1761年)に見える注音とも共通する。漢字音そのものについて言えば、『清文啓蒙』において尖音字にgi-, ki-, hi-という表記が見られ、団音字にji-, ci-, si-という表記が見られることからすでに尖団の区別が混乱した状態にあったと考えられるが(竹越2011: 3), 『御製増訂清文鑑』では一見すると尖団音字がはっきりと区別される。しかしながら例えば「旌」(精母)を1箇所でgingと

記したり、「結」(見母)を1箇所でjiyeiと記したりするなどといった例が少ないながらも見られる。規範意識により区別をしたが現実の状況の影響を受け、修正漏れしてしまったものであろう。

1. 2. 韻母

韻母は以下のように示すことができる。それらを表す標準的な満洲字もあわせて提示する。

/a/ a	/ia/ -ia, ya	/ua/ -uwa, wa	
/ə/ e	/iə/ -iyei, ye	/uə/ -uwe, we	/yə/ -iowei, yuwei
	/io/ -iyo, yo	/uo/ o	
/ə/ el	/ɿ ʅ/ -y, -i		
	/i/ i	/u/ u	/y/ ioi
/ai/ ai	/iai/ -iyai, yai	/uai/ wai, -uwai	
/əi/ ei	/uəi/ -ui, wei		
/au/ ao	/iau/ -iyao, yao		
/əu/ eo	/iəu/ io		
/an/ an	/ian/ -iyan, yan	/uan/ -uwan, wan	/yan/ -iowan, yuwan
/ən/ en	/iən/ -in, yen	/uən/ -un, wen	/yən/ -iyün, yün
/aŋ/ ang	/iaŋ/ -iyang, yang	/uaŋ/ -uwang, wang	
/əŋ/ eng	/iəŋ/ ing	/uəŋ/ -ung, weng	/yəŋ/ -iong, yung

『御製増訂清文鑑』では特定の音節が雍正期以前の資料とは異なる綴りがされる場合がある。多くの場合は康熙帝(玄燁)、雍正帝(胤禛)、乾隆帝(弘曆)に対する避諱によるものである。まとめると以下ようになる。

	玄	燁	胤	禛	弘	曆
避諱前の表記	hiowan	yei	in	jen	hūng	li
『御製増訂清文鑑』	siowan	ye	yen	jen'	hūng	lii

「弘」については避諱があってもなくても同じ表記であるが、これだけ避諱を行わないと言うことは考えづらく、以前から実際にはほとんど使われることがなかったhungという綴りを避けるべき対象と設定しhūngと書くことによりそれを避けるという扱いをしているようである¹⁾。その他の綴りについても以前から表記の揺れとして用いられたものを利用することが多い。yeiとye, inとyen, liとliiはそれである。そしてhiowanを避ける形としてsiowanが用いられるのは尖団音の混乱が進んでいるからこそであろう。jen'で用いられた'は, han(君主)とhan'(それ以外の「漢」などの漢字音)の区別を表す表記上の方法を応用したものと考えられる。

音系そのものの特徴としては/iai/があること、果摂および宕摂入声由来の/uo/と曾梗摂入声由来の/ua/を区別すること、臻山摂入声由来の/yə/と宕江摂入声由来の/io/を区別することなどが挙げられる。ただ、これらのうち/iai/については哈韻一等字「埃」や麻韻三等字「椰」

1) 満洲字による漢字音表記では時代を問わずhに後続する/u/をüで記するのが普通である。

までがyaiと書かれたりしていることなどから混乱した様子をうかがうことができる。また/uo/と/ua/については果摂字「過」ではg'oが多いもののguweと書かれる箇所が見られたり、「果」ではg'oよりguweが多く用いられたり、他にも果摂の零声母字で以前には見られなかったweという綴りが用いられたりするなど実際には合流していたようである。一方、/io/と/ya/についてはまだ区別がはっきりしている。これらはいずれも当時の状況を反映しているとみられ興味深い。声調については他の満洲字による漢字音表記と同じく綴りの上からはその区別は見られない。

2. 『御製増訂清文鑑』漢字音表

(凡例)

1. 本字表は『御製増訂清文鑑』に現れる漢字について、満洲字で書かれた字音をローマ字転写したものである。それぞれの音節においては、原則として出現回数の多い順に並べた。出現回数については同一字に複数の表記がある場合のみ記載した。
2. 底本には内閣文庫所蔵のデジタル公開画像「国立公文書館デジタルアーカイブ」(旧昌平坂学問所蔵：請求番号278-0112)を用い、同版とみられる資料(旧昌平坂学問所蔵：請求番号278-0115および旧紅葉山文庫所蔵：請求番号経053-0010)を参照した。
3. 漢字は原則として通用のもので表し、正字と異体字・俗字がそれぞれ収録されている場合はそのまま示した。特に字体の異なる場合、あるいは説明が必要と考えられる場合のみ注釈を加え、細かな字体の差異については注記しない。
4. 同一の字が複数の音を持つ場合には後ろに出現回数を記し、括弧の中に異なる音とその出現回数を示した。例えばbaに罷6(pi5)とあるのは「罷」はbaとして6箇所として現れ、piとして5箇所に現れているということである。他に同一音韻の表記の揺れと考えられる場合は括弧内に斜体で示した。niyeiに攝1(niye 1)とあるのは、「攝」はniyeiと1箇所ですかれ、niyeと1箇所ですかれるということである。これらは満洲字表記は異なるが同一の音を示していると考えられる。
5. 明らかに誤刻と見られるものについては特に取り上げないが、その文字の出現回数が少ないなど判別が難しい場合は注釈を加えた。

2. 1 /a/, /ia/, /ua/韻

	/a/	/ia/	/ua/
/p/	ba 把八拔壩巴笆叭罷 6(pi5) 疤弼喇吧霸礮趺扒 1(pa3)		
/p ^h /	pa 怕爬琶把扒 3(ba1) 把帕把		
/m/	ma 馬麻嗎罵媽嘛鷹瑪碼瑪		
/f/	fa 發乏法髮伐罰垓砭筏		
/t/	da 打搭大 258(dai6) 達答疸 4(dan2) 嗒踏躑躅		
/t ^h /	ta 他塔癩踏塌蹋躑躑闔闕榻搨		
/n/	na 那 29(na1) 拿納訥訥捺拏𠵽		
/l/	la 拉蠟喇刺辣臘𦵏𦵏𦵏		
/ts/	dza 雜咱咂匝		
/ts ^h /	tza 擦17(ca2)		
/s/	sa 撒灑 5(sa9) 薩蹻		

/tʂ/	ja 扎 炸 詐 札 渣 乍 剿 柵 榨 查 3 (ca9) 楂 3 (ca2) 紮 炸 喳 割 閘 楂 租		juwa 抓
/tʂʰ/	ca 茶 叉 察 岔 插 查 9 (ja3) 杈 杈 差 3 (cai9, tsy1) 咤 擦 2 (tsa17) 楂 2 (ja3) 礫 紮 紮 漢 擦 搯 杈 杈 利		
/ʂ/	ša 沙 紗 殺 砂 灑 9 (sa5) 煞 傻 杉 3 (šan1) 厦 鴛		šuwa 刷 耍
/z/			
/k/	g'a 噶 2 (ga3)	giya 甲 夾 家 架 加 駕 價 假 嫁 痲 賴 枷 迦 袂 傢 買 莢 笳 枷 嘉 榎	guwa 刮 瓜 掛 褂 卦 寡 駟 罽 副 挂
/kʰ/	k'a 喀 0 (ka2) 卡 0 (ka1)	kiya 掐 恰 恰 伽 1 (kiyei1)	kuwa 誇 誇 剗 ²⁾ 垮 垮 垮 垮
/x/	ha 哈 哈 1 (ge5)	hiya 下 夏 蝦 唬 匣 轄 轄 霞 轄 洽 鶴 陋 給 蝦 瑕 狹 暇	hūwa 花 話 化 滑 畫 19 (ho6) 樺 華 划 猾 諱 劃 4 (ho5) 踝 楞 鐮 匙
/Ø/	a 阿 4 (e1, o4)	ya 牙 衙 鴨 壓 鴉 芽 雅 軋 訝 押 研 啞 呀 鴉 丫 亞 窠 榼 堦	wa 瓦 雀 攪 襪 蛙 尋 窵 窵 洼 凹 窩 1 (o1) ³⁾

2. 2 /ə/, /iə/, /uə/, /yə/ 韻

	/ə/	/iə/	/uə/	/yə/
/p/	be 白 百 帛 伯 北 6 (bei2) 薄 5 (bo17) 脖 3 (bo12) 撥 3 (bo4) 餽 2 (bo32) 頓 1 (bo3) 搏 1 (bo1) 搏 珀 鑒 箔 泊 栢	biyei 別 弊 弊 驚 驚 驚 撇 1 (piyei20)		
/pʰ/	pe 迫 魄 破 1 (po46) 婆 1 (po7)	piyei 撇 20 (biyei 1)		
/m/	me 抹 18 (mo3) 墨 默 脈 5 (mo1) 末 4 (mo3) 穌 麥 2 (mail2) 磨 1 (mo38) 沫 1 (mo10) 磨 1 (mo6) 摸 1 (mo3)	miyei 滅 蔑		
/f/	fe 佛 1 (fo17)			
/t/	de 得 德	diyei 跌 疊 蝶 碟 揲 迭 廕 爹		
/tʰ/	te 特 忒	tiyei 鐵 貼 帖		
/n/		niyei 孽 涅 捏 捏 梟 齧 鐮 攝 1 (niye 1)		
/l/	le 肋 勒	liyei 裂 獵 列 烈 劣 鴛 咧		
/ts/	dze 責 賊 9 (dzei2) 窄 8 (jai3) 則 側 幘 澤 2 (je9) 鑿 仄 鷄 1 (je1)	jiyei 節 截 接 姐 捷 癰 借 結 1 (giyei58)		jiowei 絕 嗟 ⁴⁾
/tsʰ/	tse 拆 4 (ce1) 側 測 冊 1 (ce6) 策 1 (ce1)	ciyei 切 且 竊 妾		
/s/	se 塞 11 (sai1) 澀 4 (še1) 齷 色 2 (še55) 戢 瑟	siyei 些 斜 寫 邪 卸 謝 洩 瀉 謝 楔 屑		siowei 雪

2) 「剗」は『広韻』苦胡切でありkuという表記が想定されるが、連続する3箇所です「抉る」の意味としていずれもkuwaと表記される。kuwaと表記される「誇」などの類推によるものか。

3) 「窩」は『集韻』烏酷切である。このwaというのはweの誤りと考えられる。

4) 「嗟」は『広韻』子邪切である。「嗟嘆」の1箇所のみ現れる。

/tʂ/	je 折 32(ʂe8) 遮這摺澤 9(dze2) 者蟄鷁蔗鷁 1 (dze1) 驢拏蜚翠汴緒鰍 蛇			
/tʂʰ/	ce 車扯冊 6 (tse1) 徹拆 1(tse4) 掣策 1(tse1)			
/ʃ/	ʂe 色 55(ʂe2) 射 49(i1) 蛇舌涉設折 8(je32) 奢 捨捨壽舍除闌社赦穉澀 1(ʂe4)			
/z/	ze 熱惹			
/k/	ge 各隔割格歌個哥格葛 革箇膈蛤 5(ha1) 疙鴿隔 福舸跖疙隔戈格茗鴿 ⁵⁾ 鳴閣 1(g'o8)	giyei 結58(jiyei1) 揭稽 5(giye2) 劫階界竭拈潔 戒 2(giyai8) 規碣詰桔 獾解 1(giyail6, hiyai2)	guwe 國過 9(g'o59) 果 26(g'o18) 裹 3(g'o15) 菓	giowei 擷決鏃驚鳩鰓駃 橄歷蹶厥掘倔 1(kioi1) ⁶⁾
/kʰ/	ke 可刻客磕渴頰 5 (hai5) 柯苛克何訶稞鏢 1(k'o1)	kiyei 怯茄慊挈伽 1(kiyai1)		kiowei 缺癩闕
/x/	he 合 56(ho3) 黑 43 (hei3) 嚇喝核 8(hū4) 荷 6(ho3) 鶻噓褐禾河 1 (ho58) 和 1(ho44) 何 1 (ho14) 獨 1(hiyei1)	hiyei 歇蟹協蠍蜴脇懈 2 (hiyail) 獨 1(he1)	hūwe 火 0(huwe1, ho79) 或 1(ho6)	hiowei 靴血穴
/Ø/	e 惡15(u12, o1) 額訛 4 (o1) 厄罔頤扼阿 1(a4, o4) 蛾 1(o1)	ye 野葉夜業噎掖冶液耶 頁	we 臥 19(o2) 窩 12(o8) 倭	yuwei 月越悅鉞閱贅噉 別

2. 3 /io/, /uo/韻

	/io/	/uo/
/p/		bo 餽32(be2) 薄 17(be5) 剝 16(bao1) 脖 12(be3) 簸鉢波駁博撥 4(be3) 頓 3(be1) 鉢波玻悖膊字駁 駢剖 1(pee6) ⁷⁾ 搏 1(be1) 縛
/pʰ/		po 破 46(pe1) 坡婆 7(pe1) 躓波潑頗滌
/m/		mo 磨 38(me1) 麼沒 12(mu17) 沫 10(me1) 模 6 (mu3) 磨 6(me1) 摩摹抹 3(me18) 末 3(me4) 摸 3(me1) 謨謀模謨謨模莫謨莫鴟鴞脈 1(me5)
/f/		fo 佛 17(fe1)
/t/		do 多躲垛奪掇朵惰馱 3(to3) 鐸舵彈哆剝躲墮
/tʰ/		to 脫駝托拖庀陀陀妥託唾馱 3(do3) 駝陀沓鼉擗橐 鈞墨
/n/	niyo 虐癩	no 挪孥難孺娜那 1(na29)
/l/	liyo 略剝掠	lo 落羅螺羅烙 11(lao1) 絡 8(lao1) 鑼樂 7(yo30) 硌擲駝邏羅擗駝駝硌硌羸羸瘰洛

5)「鴿」は『広韻』乙鎋切であるが、明末の『合併字学集韻』では「各」と同音である。実際にそのような音で読まれていたようである。

6)「倔」は現代北京語では[tɕye]と発音されるが『広韻』では衡物切であり、『合併字学集韻』にも「音局」とある。『御製増訂清文鑑』に見られるgioweiという表記は現代北京語に通じる変化を捉えたものであると見られる。

7)「剖華」(ukiyeke cecike・鳥の名)について「剖」にboという音が記されている。『広韻』には普后切のほかに芳武切も見られるがこれらとも合わない。

/ts/	jiyo 爵	dzo 作坐做佐左鑿座昨柞昨莖 1(tsol)
/ts ^h /	ciyo 雀 64(ciyao4) 鵲 11(ciyao1, kiyao1)	tso 錯挫磋搓挫鏃撮莖 1(dzol)
/s/	siyo 削 7(siyao7)	so 索瑱鎖縮莎絞梭所 3(so23) 唆梭 ⁸⁾ 染蓑
/tʃ/		jo 着著卓啄拙拙濁濯捉灼 2(so4) 棹 2(jao2) 斲斲 鴉喙酌勺 1(sao2)
/tʃ ^h /		co 戳
/ʃ/		šo 說所 23(so3) 灼 4(jo2) ⁹⁾ 碩朔爍灼灼芍藥
/z/		zo 弱若箸
/k/	giyo 角脚覺嚼 5(giyao11) 獲穫	g'o 過 59(guwe9) 鍋果 18(guwe26) 裹 15 (guwe3) 閣 8 (ge1) 蠅囁聒惇郭
/k ^h /	kiyo 殼 9(geol) 却殼確	k'o 科騾濶鰍課鏢 1(ke1)
/x/	hiyo 學43(hiyao1) 諱	ho 火 79(huwe1) 河 58(he1) 和 44(he1) 活 14 (h'ol) 何 14(he1) 鶴鹵盒貨畫 6(hüwa19) ¹⁰⁾ 夥 6 (h'ol2) 或 6(hüwe1) 劃 5(hüwa4) 伙惑合 3(he56) 荷 3(he6) 獲 3(hül) 禍闔賀貉 1(hao2, h'ao1)
/Ø/	yo 樂30(lo7) 藥約躍鑰耀 3(yao1) 諭嶽岳	o 餓我鴛窩 8(we12) 鵝俄阿 4(a4, e1) 闊臥 2 (we19) 礮噩鵠鵠高哦惡 1(e15, u12) 訛 1(e4) 鴛 1(wal) 蛾 1(e1)

2. 4 /i/, /ɿ, ʌ/, /u/, /ioi/, /el/韻

	/ɿ, ʌ/, /er/	/i/	/u/	/y/
/p/		bi 鼻避彼筆比閉碧必鄙 篋敝陞僻 4(pil) 壁逼畢 黴辟壁蔽黽孿蹕蹕賁裨 批匕弊弼庇	bu 不部布補步簿捕葡鵠 鳩鮐卜葡 1(pu9)	
/p ^h /		pi 皮披劈匹疲琵琶 5 (ba6) 批坯髀髀紕鴉脾 屁疋鷓鴣胚軋擘 ¹¹⁾ 痺痞擘 毘毗岬僻 1(bi4) 否 1 (foul)	pu 鋪葡 9(bul) 蒲撲僕 鋪普譜醺撲菩潛穰穰 堡膜	
/m/		mi 米密迷蜜彌醺醺彌 靡覓摩	mu 木母 54(u1) 沒 17 (mo12) 目牧牡睦模 3 (mo6) 苜暮畝碼幕穆慕 沐 1(sul)	
/f/			fu 夫浮服婦福府副父富 伏復撫符俯附負腹斧扶 覓傅覆輔賦鵠芙腐付駙 麤蝠拂佛佛幅阜敷鵬簠 耐扶幅拂拂拊撫孚甫鮒 釜	

8) 「梭」は『広韻』阻力切であり、soという表記に合わない。「梭子米」(homsori bele) という語に見られ、「梭」の誤りと考えられる。

9) 「灼」は『広韻』之若切であるが、『西儒耳目資』にもsoという音が見られる。

10) 「畫」および「劃」に見られるhoという音は、『広韻』胡麦切に由来し『合併字学集韻』厥韻曉母字(「或」などと同音)に見られる音に対応するものであろう。この音はhüweと書かれることが想定されるが^{1.2)}で述べた/uə/と/uo/の合流によりhoと書かれたと考えられる。

11) 「擘」は1箇所のみ現れる。『龍龕手鑑』に「擘、正作擘」とあり、「擘」は『広韻』博厄切である。『御製増訂清文鑑』では「擘」「擘」いずれも1箇所ずつ現れpiと書かれる。

/t/		di 的地底敵弟低第遞滴 帝堤抵翟蒂笛悌荻戩鶴 隄諦底氏覲迪述棣 1 (lii1)	du 都肚督度獨渡讀 7 (deo2) 讀賭杜嘯毒漬堵 黠姑犢篤蠹鉞狀	
/tʰ/		ti 提蹄體題踢厓涕替剔 梯剃啼鴉鷄題提嚏	tu 土免蠹吐突塗圖禿途 徒兔荼鴉鴉醯菀	
/n/		ni 泥呢你逆溺膩霓尼蛭 鷓鴣匿擬 1 (i2)	nu 怒奴弩努駑努	nioi 女
/l/		lii 立吏禮力理裏離利麗 犁李裡黎隸里梨栗荔猓 歷籬例粒璃鸚羆獬羆驪 蠹蛭鯉羅鰲鳩蔭萬瓊婁 厲釐莉痼癰瀝櫟痢痢笠 棣 1 (di1)	lu 鹿綠露六 17 (lio2) 蘆 路錄爐鹵魯祿輅碌碌 盧櫓陸潞顙輓鷗鴛鱸 滷櫨	lio 屢驢呂縷 4 (leo1) 慮 律履樓萊閭膺欄旅侶
/ts/	dzy 子字紫自孳滋仔鷗 訾籽緇咨資秭苾茲滓梓 紆 ¹²⁾	ji 祭積脊擠疾濟集即籍跡 嫉際鯉蒺薺 2 (ci1) 藉鶴 稷績	dzu 足祖族祖祚祖俎判 俎 1 (jioi1)	jioi 聚 10 (gioi1) 睢疽狙 1 (dzul)
/tsʰ/	tsy 刺次詞此辭慈磁鶯祠 疵疵雌茨賜 2 (sy1) 此 髭嗣差 1 (cai9, ca3)	ci 齊七漆妻戚棲臍砌緝 旗 2 (ki85) 薺薺 1 (ji2)	tsu 粗促醋簇鉏蹙猝措 ¹³⁾	cioi 取趣蛆趨趨
/s/	sy 司絲四思祀死寺似斯 駟私泗鷺漸兕嘶嘶已伺 賜 1 (tsy2)	si 細息西洗 18 (siyan2) 惜膝席習襲犀席錫媳昔 獵夕析地隙 1 (hi2)	su 疏 9 (su13) 訴蘇蘇 宿 ¹⁴⁾ 肅俗速嗟粟	sioi 鬚續絮需徐序瘃須 緒宿敘戊
/tʂ/	ji 紙直製致指枝只至知 雉支之織止執志芝治滯 職肢值擲制姪趾祉旨炙 智值殖緻枳脂鷺瘵梔蛭 秩蚶置蹟植汁痔誌蕘微 1 (jeng2) 祇 1 (ki1)		ju 住猪主珠竹諸柱助朱 煮注逐祝粥軸 6 (jeo9) 殊豬筋鑄貯燭牡塵洙駐 註築翥櫨祝蚶蛛苧苧筑 箒 1 (jeo5) ¹⁵⁾	
/tʂʰ/	cy 翅喫遲赤恥尺池匙齒 眇敕馳叱持鴟吃咎癡弛 鸛螭蚶蚶簋蔡墀侈勅瀾		cu 處出畜除初楚儲儲廚 鋤踰起搗怵齟齬芻楮厨 杵蓄 1 (hioi3)	
/ʂ/	si 使事石實十是食時飾 試侍士失濕式室師史視 示柿世蚶施釋勢什識屎 誓仕矢詩氏市屍恃尸嗜 適蝕獅始鰣蒔葑謠虱著 筮噬拾私		šu 樹書鼠熟數署舒疏 13 (su9) 束堅贖梳屬漱蜀 恕術叔梳戌庶黍鸚豎父 樞輪暑述籬蔬孰著淑沐 1 (mul) ¹⁶⁾	
/z/	zi 日		zu 肉入如乳儒褥辱孺駕 蓐	

12) 紆は「一紆麻」(haca) という語に見える。これは麻の苧一束のことであり、この紆は「紆」のことでありと考えられる。「紆」は『集韻』吉列切「絲束」とある。『御製増訂清文鑑』では「牙」を「子」と誤り、その類推でdzyという音を示したのであろう。

13) 「措」は『広韻』倉故切ではあるが、『合併字学集韻』惰韻に収められ、『清書対音協字』でもtsoであり、『御製増訂清文鑑』が編纂された時期も現代北京語[tso]と同じような音であったと考えられる。『御製増訂清文鑑』に現れるtsuという表記は古い音を保っているわけではなくtsoの誤りとみるべきであろう。

14) 「星宿」の意味の「宿」(『広韻』息救切)をsuと読んでいる。

15) 「箒」は『広韻』之九切である。jeoと書かれるべきところがjuと書かれる例は珍しい。

16) 「沐」は『広韻』莫卜切である。「沐猴」(nungneri monio) という語でsuと綴られる。「洙」(『広韻』食事切)と取り違えたか。

/k/		gi 急鷄雞給極機擊計記 幾吉紀饑寄稽騎 7(ki26) 激及季譏箕己級忌驥几 戟璣髻鞿繼鷄既奇 2 (ki12) 鹿鵠鰥鰥鰥鰥鰥 暨噤棘悻屣伎幾伎磯 驚	gu 骨鼓古姑穀股固咕故 孤估鵠穀蠱箍谷穀僱姑 鵠辜穀姑鰥鰥苦顧姑孤 粘粘鵠 1(hū12)	gioi 舉局懼居菊拒拘鵠 鉤具鵠 ¹⁷⁾ 雙駒句距車 3 (ce57) 橘俱據矩巨鞠駑 虞礪鵠莚鋸聚 1(jioi10) 枸 1(geo5)
/kʰ/		ki 氣旗 85(ci2) 起器騎 26(gi7) 奇 12(gi2) 其 欺契啓乞鯢基期豈祇哇 邱 ¹⁸⁾ 祈棄棋碁碁獰琪麒 騏谿杞迄崎祁泣祇 1 (jy1) ¹⁹⁾	ku 庫哭苦褲窟枯酷袴骷	kioi 去曲屈渠麴羈驅毆 驅輻僣 1(giowei1)
/x/		hi 稀戲 19(hū1) 繫喜吸 瀉嘻希隙 2(sil) 鵠犧系 係顯	hū 虎護 44(hu1) 忽呼胡 糊壺狐 16(hu1) 鵠 12 (gu1) 葫互核 4(he8) 屬 戶瑚鵠鵠鵠鵠鵠鵠鵠 湖乎穀瑚囟鵠鵠鵠鵠 1(hi19) 獲 1(ho3)	hioi 虛許蓄 3(cul) 吁驢 尋
/Ø/	el 兒二耳爾洱珥貳珥而 餌	i 一衣儀已意異義醫亦倚 疑移姨翼議益遺驛依蟻 宜逸椅易夷以譚藝鷄揖 乙億溢擬 2(nil) 鷄鷄鵠 迤馳肄蜺腴特揲噎劇頤 鑑翳彝嚙伊侈射 1 (še49)	u 物無五武務汚惡 12 (e15, ol) 悞舞霧誣鵠伍 屋机蜈誤吾麗鶯梧悟於 2(ioi13) 鴟鵂洩忤无巫 鳴戊母 1(mu54) ²⁰⁾	ioi 語魚御雨玉輿預於 13 (u2) 餘裕遇羽尉 8 (wei1) 于愚踰豫欲虞鵠 與諭揄役迂宇育鬱浴愈 漁竄鵠逾孟淤獄域戮瑯 零羈瘳瑣榆敵史舄嫗余 隅禦瘳芋羈慰 1(wei6)

2. 5 /ai/, /iai/, /uai/韻

	/ai/	/iai/	/uai/
/p/	bai 敗擺拜裨柏憊		
/pʰ/	pai 牌排派拍簍		
/m/	mai 賣麥 12(me2) 買埋邁		
/f/			
/t/	dai 帶袋戴戴待大 6(da258) 代怠 玳呆		
/tʰ/	tai 太臺胎臺苔抬泰態臺台		
/n/	nai 奶耐奈霽乃禱		
/l/	lai 來賴癩徠駭萊濼躑		
/ts/	dzai 宰在崽再栽載災梓	jiyai 睫 ²¹⁾	
/tsʰ/	tsai 菜彩裁纔採踴猜采財材綵才 蹠睬		

17) 「鵠」は『広韻』其俱切，古侯切である。『御製增訂清文鑑』では現れる3箇所全てでgioiと書かれる。「句」による類推か。

18) 「邱」は『広韻』去鳩切である。「邱」は1箇所のみに現れる。kioがkiと書かれる例は珍しい。単純な誤記か。

19) 「皇祇室」(na-i enduri dobon) という語で「祇」にkiという音が添えられているがこれは本来「祇」と書かれる字である。「祇」は『広韻』巨支切の音があり，kiはこれに対応する。

20) 「母」は「母追」(lenggetu) という語でuと書かれる。この語は正しくは「母追」と書かれ、『集韻』迷浮切の音で読まれる（現代北京語では[mou]）。『御製增訂清文鑑』に見られるuという音は「母」の『広韻』武夫切によるものであろう。

21) 「睫」は1箇所のみ現れる。jiyeiの誤りと考えられる。

/s/	sai 腮賽鯢塞 1(sai1)		
/tʂ/	jai 債齋多寨窄 3(dze8) 宅		
/tʂʰ/	cai 差 9(ca3, tsyl) 柴難釵豺		cuwai 揣
/ʃ/	šai 晒篩曬棟		šuwai 摔率衰
/z/			
/k/	g'ai 蓋改該概咳丐	giyai 解 16(giyeil, hiyai2) 戒 8 (giyei2) 街芥鴿鵠誠疥介	guwai 怪拐拐乖
/kʰ/	k'ai 開凱慨	kiyai 楷	kuwai 快塊潰脛
/x/	hai 海害頰 5(ke5) 孩咳醃骸亥	hiyai 鞋獬獬解2 (giyai16, giyeil) 械懈 1(hiyei2)	hūwai 壞塊槐淮裏
/Ø/	ai 愛艾矮霽哀椰 3(yai1) 藹礙曖 鴉挨 1(yai6) 埃 1(yai1)	yai 挨 6(ai1) 崖厓隘涯椰 1(ai3) 埃 1(ai1)	wai 外歪

2. 6 /əi/, /uəi/韻

	/əi/	/uəi/
/p/	bei 被背備輩貝悖卑盃婢杯北2(bei6) 蓓諱裨碑悲捩	
/pʰ/	pei 配轡佩陪培胚	pui 脬 ²²⁾
/m/	mei 眉梅每美煤妹媒媒魅昧糜玫湄	
/f/	fei 飛肥費非妃廢閔馱痲荊蜚蕤樞吠肺	
/t/		dui 對堆兌碓隊
/tʰ/		tui 腿退推煨頹
/n/	nei 內	
/l/	lei 淚累 6(lui7) 戾壘 2(lui1) 詠蕾猥隤 1(lui1)	lui 類累 7(lei6) 雷膠鷗雖搥壘 1(lei2) 隤 1(lei1)
/ts/	dzei 賊 2(dze9)	dzui 嘴醉罪贅
/tsʰ/		tsui 催翠脆萃萃粹
/s/		sui 碎隨歲穗崇尿 5(niyao1) 雖隨歲總榷榷
/tʂ/		jui 追 15(juwei12) 墜 3(juwei20) 錐 0(juwei6)
/tʂʰ/		cui 垂吹鎚捶搥椎捶錘
/ʃ/		šui 水睡瑞 7(zui1) 誰稅
/z/		zui 銳蕤葵葵蕊瑞 1(šui7)
/k/		gui 鬼歸櫃圭跪規貴龜晷嵩瑰桂鴿鉅龜竊葵跬跬
/kʰ/		kui 盔愧葵潰揆窺奎睽夔虧
/x/	hei 黑3(hei43)	hui 會 ²³⁾ 回灰 26(hui1) 毀悔諱迴穢麾慧揮廻廻蕙繪 惠輝暉蚺茴茴晦渾蜺
/Ø/		wei 尾微圍未味衛為威畏喂喂煨慰 6(ioi1) 緯葦薇 爲違桅桅危胃蜚蜚熨帷惟位韋透隈尉 1(ioi8) 餞 0 (ui1) ²⁴⁾

2. 7 /au/, /iau/韻

	/au/	/iau/
/p/	bao 包豹保飽暴報 14(bao1) 寶 13(bao9) 抱爆 9 (pao1) ²⁵⁾ 鮑 6(pao1) 雹鮑博葆苞瀑襖剝 1 (bo16) 狍 1(pao3) 胞 1(pao2)	biyao 表鰲臛裱剝標彪鵲漂 1(piyao7)

22) 「脬」は『広韻』敷尾切，普乃切，滂佩切である。「脬脬」(purpui・獣の名)という語に見られる。『御製増訂清文鑑』では止蟹攝唇音字はこの字を除きいずれもeiという韻母で書かれる。なぜこれだけuiと書かれるかは不明である。実際にはpeiを示すか。

23) 「會計」では「會」をhuiと読んでいる。

24) 「餞」は1箇所のみ現れる。nuiの誤りと考えられる。

25) 「爆」は『広韻』北教切，北角切，補各切を載せいずれも幫母字である。これがpaoと書かれる理由は漢字音によるものではなく，満洲字表記上のpとbの混用であろう。他にも同様な混用例が見られる。

/p ^h /	pao 跑泡壺 13(<i>poo</i> 1) 礮拋袍刨礮袍 3(<i>baol</i>) 胞 2(<i>baol</i>) 咆咆咆咆爆 1(<i>baol</i> 9) 鮑 1(<i>baol</i> 6)	piyao 飄票漂 7(<i>biyao</i> 1) 瓢 5(<i>piyoo</i> 3)
/m/	mao 毛帽貌冒茅貓 4(<i>miyao</i> 1) 卯貓茂貿蚤瑁昂旄錨	miyao 苗廟藐渺眇妙秒描黠貓 1(<i>mao</i> 4)
/f/		
/t/	dao 刀道倒到盜導擣叨搗禱倒悼島稻盜	diyao 鵬調 12(<i>tiyao</i> 6) 貂雕弔釣刁緇凋鴉鈔鴉
/t ^h /	tao 套桃討洵萄逃緲詢詢韜禱	tiyao 條跳挑調 6(<i>diyao</i> 12) 佻咎鱗窈
/n/	nao 腦鬧惱撓礪饒礪 ²⁶⁾ 孺瑤	niyao 鳥嫖尿 1(<i>sui</i> 5)
/l/	lao 老勞牢滌撈佬酪烙 1(<i>lo</i> 11) 絡 1(<i>lo</i> 8)	liyao 了料 ²⁷⁾ 療療摺瞭潦獠聊繚寥釘蠟錄
/ts/	dzaol 造躁棗糟早竈遭澡早蚤	jiyao 焦椒鷄剿
/ts ^h /	tsao 草127(<i>tsao</i> 1) 槽鈔漕槌曹蟠藻	ciyao 悄悄瞧鞘雀 4(<i>ciyo</i> 64) 鏊諂樵峭樵嶽鵲 1(<i>ciyo</i> 11, <i>kiyao</i> 1)
/s/	sao 掃噪騷臊埽嫂燥繅鯨藻	siyao 小 166(<i>siyoo</i> 1) 笑消削 7(<i>siyo</i> 7) 銷簫硝綽霄蕭瀟宵峭肖
/tʂ/	jao 罩照招爪找兆詔棹 2(<i>jo</i> 2) 昭策朝 1(<i>cao</i> 22)	
/tʂ ^h /	cao 朝22(<i>jao</i> 1) 潮抄炒超	
/ʂ/	ʂao 燒少哨梢梢韶勺 2(<i>jo</i> 1) 颺 ²⁸⁾	
/z/	zao 繞遶饒擾	
/k/	g'ao 高糕羔誥膏篙蒿皋藁藁	giyao 叫轎教交攪嚼 11(<i>giyo</i> 5) 絞澆狡絞驕嬌膠膠較餃蛟蛟窖僥酵郊鴉 1(<i>hiyao</i> 5)
/k ^h /	k'ao 靠考烤尻	kiyao 翹巧橋敲蕎蕎喬撓轎驕繳駁鵲 1(<i>ciyo</i> 11, <i>ciyao</i> 1)
/x/	hao 好 39(<i>hao</i> 7) 號 12(<i>hao</i> 2) 蒿耗毫貉 2(<i>hao</i> 1, <i>ho</i> 1) 豪	hiyao 學 1(<i>hiyo</i> 43) ²⁹⁾ 孝曉駁鴉 5(<i>giyao</i> 1) 校 ³⁰⁾ 效驍臬餽鸛鸛哮
/Ø/	ao 襖傲熬熬懊獬獬 ³¹⁾ 鰲鰲奧	yao 腰搖要召鵲鵲窰敲咬咬邀瑤謠妖嫖嫖窰遙爻爻顛耀 1(<i>yo</i> 3)

2. 8 /əu/, /iəu/韻

	/əu/	/iəu/
/p/		
/p ^h /	peo 剖 6(<i>bo</i> 1)	
/m/	meo 某鴉	
/f/	feo 否 1(<i>pi</i> 1)	
/t/	deo 豆斗抖兜鬪痘筈鬪讀 2(<i>du</i> 7) 蚪抖逗	dio 丟
/t ^h /	teo 頭透偷投甌	
/n/		nio 牛鈕繆 ³²⁾ 扭 5(<i>jeo</i> 1) 繆紐扭

26)「礪」は「礪砂」(tuyeku yonggan)という語に見られる。『集韻』籠五切である。字体の似る「礪」(『広韻』奴皓切)と誤認したか。

27)「料」は22箇所現れるうち、1箇所では明らかに*liyo*と綴られる。効撰字が*iyao*ではなく、*-iyo*という音を持っていたとは考えられずこれは誤刻によるものと考えられる。

28)「颺」は『広韻』蘇遭切である。『御製增訂清文鑑』では1箇所のみに見られる。単純な誤刻か。

29)「學」は44箇所現れるうち43箇所では*hiyo*と、1箇所のみ*hiyao*と書かれる。*hiyao*は「俄羅斯學」(*oros tacikū*)という語に見られる。他の類似する語、「回子學」(*hoise tacikū*)、「唐古特學」(*tanggūt tacikū*)ではいずれも「學」は*hiyo*と書かれることや、単音節動詞「學」を含む「去學」「來學」においても*hiyo*と書かれていることから、「俄羅斯學」の「學」が*hiyao*と書かれるのは口語音を示すものではなく書き間違いであると見られる。

30)「檢校」の「校」(『広韻』古孝切)を*hiyao*と読んでいる。四部本では*giyao*である。

31)「獬」は1箇所のみ現れる。*nao*の誤りと考えられる。

32)「繆」および「繆」は『広韻』所収の音の声母はいずれも明母である。これらの字は来母字のように読まれていたようで『滿文三國志』(1650年序)においても*nio*と表記される。また、『漢語官話方言研究』によれば「繆」は現代北方方言のうち、北京官話区、膠遼官話区、冀魯官話区中原官話区では[n]声母を持つという。

/l/	leo 漏樓樓箋陋樓婁樓鸚婁樓婁樓 1(lioi4) ³³⁾	lio 流柳溜留驪旒綰鸚瑠琉六 2(lu17) 鶴遡榴劉
/ts/	dzeo 走奏皺 5(jeo1) 縐 2(jeo1) 騶陬	jio 酒就揪鶯
/ts ^h /	tseo 湊湊 1(seo2)	cio 鞦秋鶯猷猷適猷酋
/s/	seo 搜搜猷猷湊 2(tseo1) ³⁴⁾ 餽藪蒐	sio 袖修羞繡綉秀繡
/tʃ/	jeo 軸 9(ju6) 洲周咒箒 5(ju1) 州週齣齣鷗譙葯紂 帚肘扭 1(nio5) 皺 1(dzeo5) 縐 1(dzeo2)	
/ts ^h /	ceo 抽紬稠醜讎愁綢籌臭 3(hio5) 騶躊酬丑謳	
/ʃ/	seo 手獸收受守首壽綬授狩	
/z/	zeo 揉柔	
/k/	geo 狗鈎鈎勾溝垢枸 5(gioi1) 鉤構姁苟殼 1 (kiyo9) ³⁵⁾	gio 九舊究舅鳩韭救久臼咎糾灸
/k ^h /	keo 口叩叩寇窵窵	kio 求球虬毬丘仇逌裘
/x/	heo 後厚喉猴候吼侯后喉痕吼	hio 休臭 5(ceo3) 朽嗅鴉
/Ø/	eo 嘔鷗謳藕歐偶謳謳謳	io 有油友誘由憂遊右游優又秀悠袖幼猶幽宥宥猷 袖佑酉

2. 9 /an/, /ian/, /uan/, /yan/韻

	/an/	/ian/	/uan/	/yan/
/p/	ban 板半辦斑絆拌癢 瓣扮伴搬搬盤盤般	biyan 邊變扁鞭編便 11 (piyan4) 弁辨匾編編篇 邊徧辯辯遍		
/p ^h /	pan 盤攀判叛攀拚蟠 磬	piyan 片偏騙便 4 (biyan11) 騙翩篇		
/m/	man 滿慢慢滿幔輓蠻曼 漫饅饅曼曼蔓 1(wan1)	miyan 面麵冕綿綿勉免 麵麵眠湏		
/f/	fan 翻飯煩反犯繁番幡 蕃凡販泛藩返蕃藩梵範 藩			
/t/	dan 單淡丹蛋膽擔揮 4 (tan4) 鴟旦但彈 2 (tan9) 疸2(da4) 否耽憚 誕担	diyan 點墊顛典殿靛電玷 奠鈿癩甸玷玷癡淀店	duwan 緞斷短端段段 端 ³⁶⁾ 煨	
/t ^h /	tan 探嘆貪彈 9(dan2) 癡檀攤壇壇 4(dan4) ³⁷⁾ 痰談炭坍曇坦簞譚毯灘 鴨忘鏤歎	tiyan 天田添填畋甜恬恬 覲	tuwan 團餽象	
/n/	nan 難南男楠楠	niyan 年黏16(jan'1) 念 碾薦捻脛輦熱粘 2 (jan'8) 鮎	nuwan 暖煨	

33) 「縐」は『広韻』力主切である。「樓」などによる類推か。

34) 「湊」は『広韻』倉奏切である。古い時期の満洲資料ではdz-, ts-の区別、あるいはそれらとs-の区別がはっきりしていないことも多いが、『御製増訂清文鑑』では概ねはっきりと区別される。「湊」がsと綴られるのは実際の漢字音の反映ではなくやはり満洲字表記の際の誤りであろう。

35) 「殼」(「設」)は『広韻』苦角切である。「剛殼」(baningga)という語でgeoと書かれる。ここの「設」は「殼」(『広韻』古候切)の誤りと考えられる。

36) 「端」は『広韻』他端切、通貫切である。1箇所のみ現れduwanとあるのは「端」などの類推あるいは単なる書き間違いか。

37) 「揮」は『広韻』徒干切、徒案切、市連切である。『御製増訂清文鑑』でtanと書かれているところを見ると「揮棉花」(hithembi)などであり、「はじく」の意味である「彈」(『広韻』徒干切)の意味で使われていることがわかる。

/l/	lan 爛蘭藍欄懶攪濫婪 檻纒瀾攪欄闌覽欄籃	liyan 連臉練簾簾聯鎌煉 廉憐賺斂鍊獫獫殮殼連 鯁斂棟	luwan 亂鸛鑾攣 1 (liowan2) 樂	liowan 戀攣 2(liowan1)
/ts/	dzan 贊簪攷鑿趲鑽 1 (dzuwan13)	jiyan 箭尖剪漸賤煎箋儼 戲濺薦	dzuwan 鑽 13(dzan1) 鑣躡摺纂摺 2(tsuwan2) 鑽	
/ts ^h /	tsan 殘參 12(sen7, tsen1) 譏蠶漸嶮嶮	ciyan 前錢淺千簽遷韃籤 蹣阡僉仟鉛 1(kiyan3)	tsuwan 攢鑽躡儼 ³⁸⁾ 摺2 (dzuwan2) 寔	ciowan 全拳 1 (kiowan13) 泉
/s/	san 三散傘餞	siyan 線仙先擇洗 2 (si18) 杣彌鈎纖鮮鮮縣 1(hiyan10) ³⁹⁾	suwan 算酸蒜狻	siowan 旋選宣懸 5 (hiowan1) 鍤揅揅揅 2(hiyan1) 漩錫 1 (hiowan1) 璫眩萱
/ts/	jan' ⁴⁰⁾ 站戰展擅沾 8 (niyan2) 蘸綻詹沾盞沾 占纏 3(can20) 毡諺棧暫 斬鸛跼霰輾旆黏 1 (niyan16)		juwan' 轉篆專傳 9 (cuwan16) 磚饌賺轉撰	
/ts ^h /	can 纏 20(jan3) 顛撓產 饒鏟剗禪諂諂駢黏 ⁴¹⁾ 槿		cuwan 船穿傳 16 (juwan'9) 串喘椽舛川	
/ʃ/	šan' 山扇閃善驕膳搗衫 鯁苫芰珊瑣瑣疝擅繕杉 1(ša3)		šuwan 拴瀾門	
/z/	zan 然染鵝然		zuwan 軟輦	
/k/	g'an 乾 55(kiyan4) 趕桿 杆干幹感肝甘敢汨赶橄 竿柑澣柑斲	giyan 見鑑監間件肩減檢 儉堅健檢奸揀建鷗繭繭 簡諫艱劍鷗健健蹇謙鋼 鏹錢澗關	guwan 官管冠館關慣鸛 觀貫灌罐確萑萑棺綸 1 (luwen1)	giowan 卷捲倦絹圈鵠捐 券 ⁴²⁾
/k ^h /	k'an 看坎堪勘龕	kiyan 牽遣賺縑謙乾 4 (g'an55) 鉛 3(ciyan1) 噤鉗檻 ⁴³⁾ 嵌尖鈴愆欠	kuwan 寬款	kiowan 圈拳 13 (ciowan1) 勸犬吠權顫
/x/	han' 漢寒汗喊 9(h'an1, hiyan1) 含旱翰轄罕罕 涵翰瀚	hiyan 閒險弦縣 10 (siyan1) 顯獻陷限嫌現 絃賢憲閑鹹餞咸銜鵠鰲 覓戕杻啣羨絃喊 1(han'9, h'an1) 軒 1(siowan2)	hūwan 喚還換環 13 (huwan1) 緩獮歡獮患 獮獮獮獮緩獮獮獮獮 廻	hiowan 1 懸 1(siowan5) 銷 1(siowan1)

38) 「儼」は『広韻』作管切である。隣接する2箇所でtsuwanと書かれる。現代北京語では開口化し[tsan]と読まれる。『御製増訂清文鑑』でts-と表記される理由は見出しづらい。

39) 「縣」は『広韻』黄練切，胡涓切である。尖団音の区別が曖昧となった例の一つといえる。本表では個別に指摘はしないが『御製増訂清文鑑』では他にもいくつか同様な例が見られる。

40) /tsan/についてはjan'が多数を占めるがjanも少なからず見られる。これらに音韻上の区別はないと考えられる。ここではjan'が全体として多数であるため代表してここに載せ、jan'とjanの違いについては個別には挙げない。juwan', šan'も同様である。/ian/ではyanが多く、yan'も見られる。

41) 「粘」は『広韻』丁愜切，他協切である。同じ馬具である「韉」(『広韻』昌豔切)の音か。

42) 「券」は『広韻』去願切である。1箇所のみ現れgiowanと書かれるが誤刻か。

43) 「檻」は『広韻』胡豔切であり、『合併字学集韻』でも曉母に収める。この字は『清書対音協字』でもkiyanという音であり、実際にそのように読まれたとも考えられる。

/Ø/	an 安鞍暗案岸按鵠鵠鵠 𪗇	yan 眼言厭燕沿鹽雁掩 緣 10(yuwan5) ⁴⁴⁾ 驗簪 鉞淹嚴鴿顏煙延筵研鴈 硯鷗鴦鰾菸嚙宴咽鷗鷗 鰾鑿艇脰掄掣閼閼𪗇 ⁴⁵⁾ 嚴偃爻演咽	wan 彎完萬晚婉灣碗剗 挽婉婉玩鯢萑𪗇晚𪗇蔓 1(man1)	yuwan 院遠元緣 5 (yan10) 圓 12(<i>owan</i> 2) 願原忽怨冤員源援淵鴛 園𪗇黿源玃苑菴鴛猿
-----	-------------------	---	---------------------------------------	---

2. 10 /ən/, /iən/, /uən/, /yən/韻

/ən/	ben 本奔笨鏹鏹	bin 賓鬢殯殯	/uən/		/yən/
/p/	pen 盆噴飲	pin 品貧 ⁴⁶ 聘頻拼殯牝			
/p ^h /					
/m/	men 門們悶 13(mun1) ⁴⁷ 捫邁	min 民抿敏皿閏憫	mun 悶 1(men13)		
/f/	fen 分 45(fun5) 奮粉 13 (fun3) 糞墳忿紛焚憤賁		fun 分 5(fen45) 粉 3 (fen13) 駙		
/t/			dun 鈍墩墩蹲敦頓頓國 駮塹沌沌拏逐噉 ⁴⁸ 敷 0 (duwen1)		
/t ^h /			tun 吞屯 6(jun1) 褪腎 豚涓鈍		
/n/			nun 嫩 6(duwen2)		
/l/		lin 林鱗臨淋吝鱗廩 2 (ling2) 獮櫟驕鄰隣	luwen 論輪 8(lun8) 倫 5(lun3, lon2) ⁴⁹ 圖綸 1 (guwan1)		
/ts/	dzen 怎	jīn 進盡儘晉浸津燼	dzun 撐尊導鱗臚 ⁵⁰ 鶻	jīyūn 俊駿鵠淩峻	
/ts ^h /	tsen 參 1(tsan12, šen7)	cin 親侵秦沁鱗寢	tsun 存殯村寸寸		
/s/		sin 心信新訊辛顛薪	sun 孫損孫樺笋筍	siyūn 尋巡馴循徇巽鱗遜	
/tʂ/	jen' 針陣震枕榛鎮珍真 鍼疹振軫貞 2(jeng1) 眚 箴斟砧張 1(jang3)		jun 準准肫屯 1(tun6)		

- 44)「縁」は『広韻』與專切、以絹切であり、いずれも合口であるが『中原音韻』では「延」「硯」など開口字と同音である。『御製増訂清文鑑』では「縁邊」(bitumbi)など、「縁をつける」という語の場合にyanという音が示される傾向にある。
- 45)「涎」は『広韻』夕連切、子線切である。yanという音は後者に基づくとも考えられなくもないが、「垂涎」(silenggišembi)という語であることから「延」などの類推によるものか。
- 46)「𪔐」は『集韻』滂丁切である。「𪔐」を構成要素に持つ字は中古梗撰字ながら例外的に中古臻撰字に合流している。「𪔐」について言えば『清書対音協字』ではpingという音であり、現代北京語でも[pʰin]と発音される。『御製増訂清文鑑』のpinという表記は音が揺れ動いている様子を示しているのであろう。
- 47)「悶」は『広韻』莫困切である。臻唇唇音字はenと綴られ、unというのは古い時期の漢語からの借用語(「衙門」yamun, 「分」funなど)に見られることはあるが、同時代的な音として用いられることは珍しい。
- 48)「噉」は『広韻』他昆切である。1箇所のみ現れdunとあるのは「敦」などの類推か。
- 49)「倫」は「索倫」(solon・ソロン)という語を表す際にはlonと表記される。これは漢字音を表したというよりも元から満洲語としてあった語に漢字を宛てたものであるといえる。onという表記は『御製増訂清文鑑』には他に見られない。
- 50)「臙」は『広韻』に昌眞切「肉脹起也」とある。『御製増訂清文鑑』では1箇所「臙」(humsun, gasha -i yali jeterakū jergi jaka -i guwejihe -i oronde banjilha jeku be wemburengge be humsun sembi・鳥の肉を食べない種類のものの胃の代わりに生じた食べ物を溶かすものをhumsunという)という語に見られ、これは『広韻』の語釈と合わない。humsunにあたる漢語は意味の上から「朥」(『広韻』章倫切「鳥臙」)であると考えられる。

/tʂʰ/	cen 臣沉塵晨趁襯辰噴 陳橙 ⁵¹⁾ 宸		cūn 春 24 (cun7) 8 唇 8 (cun1, šun2) 鶉椿 3 (juwang2) 蠢 2 (cun1) 淳純 1 (cun1, šun1) 蜃 1 (šun1)	
/ʃ/	šen 身神甚深伸參 7 (tsan12, tsen1) 慎審滲 腎孃鯨慘瞻藩申		šūn 順 24 (šun1) 唇 2 (cūn8, cun1) 瞬純 1 (cūn1, cun1) 蜃 1 (cūn1)	
/z/	žen 忍認刃任 3 (zin3) 紉 3 (zin1) 鴛榼稔	zīn 人仁任 3 (žen 3) 舩 仞 1 (žen3)	žun 潤閏	
/k/	gen 根跟艮莧	gīn 金緊巾筋近錦今襟禁 舫謹謹勁斤矸舂極僅	gun 棍滾轆	giyūn 軍君均郡窘齣鈞 菌岨
/kʰ/	ken 肯壘啃揜懇	kin 禽琴欽勤擒芹檣	kun 困捆坤髡緇覬崑	kiyūn 群裙羣
/x/	hen 狠很恨痕		hūn 昏混 12 (hun1) 悒 渾 6 (hun1) 魂鶻羣驪	hiyūn 燠訓熏動熏薰
/Ø/	en' 恩	yēn 銀陰引烟飲隱印音 淫因蔭蔭尹吟鷹鶻窰 茵寅瘼狎 ⁵²⁾	wēn 文問紋溫穩蚊聞瘟 鴉墨榘案吻	yūn 雲運暈勻耘鬚韻醺 蕓隕孕芸允

2. 11 /aŋ/, /iaŋ/, /uaŋ/ 韻

	/aŋ/	/iaŋ/	/uaŋ/
/p/	bang 棒榜幫綁滂傍 3 (pang3) 膀 3 (pang1) 膀榔		
/pʰ/	pang 胖旁滂傍 3 (bang3) 滂 膀 1 (bang3)		
/m/	mang 忙蟒忙莽茫芒鶻		
/f/	fang 房放方防紡坊訪妨傲驚仿舫 彷彿		
/t/	dang 當檔蕩擋黨檔錫鎬鎬		
/tʰ/	tang 堂湯糖棠燙唐湯澆塘鎬鎬 湯錫撻倘螳螳		
/n/	nang 囊攘囊囊膿	niyang 娘釀	
/l/	lang 郎狼狼 ⁵³⁾ 浪榔榔廊郎朗	liyang 量梁兩亮涼糧樑良瞭梁涼 涼	
/ts/	dzang 倉藏 9 (tsang7) 髒臟葬 臟牂	jiyang 將匠醬漿漿漿薑 2 (giyang1) 鷗糶 1 (giyang1)	
/tsʰ/	tsang 蒼藏 7 (dzang9) 蹠 4 (ciyang1) ⁵⁴⁾ 鶻鶻	ciyang 牆鎗槍槍薑槍戕牆牆蹠 1 (tsang4)	
/s/	sang 嗓喪桑	siyang 相象想詳鑲箱像廟祥翔橡	
/tʂ/	jang 長 51 (cang51) 張章掌脹帳 仗杖丈贍煒賬 3 (jen'1) 漳漲鶻鶻 漳漳漳漳		juwang 狀壯粧樁裝莊撞樁 2 (cūn3)

51) 「橙」は『広韻』宅耕切，都鄧切である。1 箇所のみ現れcenと書かれる。

52) 「狎」は『広韻』烏結切である。1 箇所のみ現れる。yenは「因」による類推か。

53) 「狼」は『広韻』呂張切，魯當切，力讓切である。いずれも「踉蹌」という語に用いられ，現れる5箇所全てでlangと書かれる。「踉蹌」のばあいは力讓切に従いliyang ciyangと書くべきところであるが「蹠」をtsangと読んだため「狼」をlangと読んだか。

54) 「蹠」は『広韻』七羊切である。いずれも「踉蹌」という語に用いられ，現れる5箇所のうち4箇所でtsangと，1箇所でciyangと書かれる。tsangは「倉」による類推か。

/tʂʰ/	cang 長 51(jang51) 常場腸廠嚐 暢唱倡昌鋤閭斃邕猖莒娼嘗		cuwang 瘡窓床闌幢牀窗
/ʃ/	šang 上傷商尚賞晌		šuwang 雙爽霜
/z/	žang 嚷讓瓢壤壤		
/k/	g'ang 鋼岡剛缸綱缸	giyang 江講疆降 5(hiyang5) 疆 缸絳僵疆疆疆姜港疆薑 1 (jiyang2) 絳 1(jiyang1)	guwang 光廣橫枕
/kʰ/	k'ang 炕糠扛抗康亢慷	kiyang 強腔虻	kuwang 狂筐框眶擴曠況
/x/	hang 行 8(hing124) 夯珩杭	hiyang 香響向項鄉降 5 (giyang5) 享嚮餉	hūwang 黃荒皇況慌恍恍蕘晃惶 風礦棍錕蝗惶幌
/Ø/	ang 昂腌 ⁵⁵⁾	yang 樣羊養揚陽仰洋楊癢漾鴛秧 陽廳佯央缺獐殃	wang 網望往王忘妄汪亡旺枉輦

2. 12 /əŋ/, /iəŋ/, /uəŋ/, /yəŋ/ 韻

	/əŋ/	/iəŋ/	/uəŋ/	/yəŋ/
/p/	beng 弮縹駢砵礮	bing 氷兵餅病冰柄並併 稟竊栞并丙屏 1(ping9)		
/pʰ/	peng 碰蓬棚彭烹朋篷膨 捧碰鵬	ping 平屏 9(bing1) 憑 瓶蘋萍評		
/m/	meng 猛蒙 13(mung7) 蠓夢虻蒙濛孟猛懵矇蒙 盟萌驥驤	ming 名明鳴命螟茗螟銘 冥鯢	mung 蒙 7(meng13)	
/f/	feng 縫 12(fung24) 蜂風 5(fung72) 豐 3(fung9) 鋒 3(fung6) 封 2 (fung21) 烽		fung 風 72(feng5) 縫 24 (feng12) 封 21(feng2) 鳳奉豐 9(feng3) 峰逢鋒 6(feng3) 俸鳳瘋葑諷楓	
/t/	deng 燈等登登瞪登戥登 鴛澄 1(ceng4)	ding 頂訂定釘釘錠鼎錠 汀汀叮	dung 動凍東洞冬懂凍	
/tʰ/	teng 疼藤騰騰籐籐	ting 聽聽挺挺亭停汀靚 亭汀艇	tung 同通銅統筒筒桐痛 童慟洞甌苟橐橐	
/n/	neng 能	ning 凝擥寧寧佞	nung 膿農濃濃膿	
/l/	leng 冷楞楞	ling 領令翎靈鈴凌零伶 嶺陵另玲綾鈴鈴檣菱廩 2(lin2) 冷鸛聆癭	lung 龍籠弄壠隆聲瓏瓏 隴隴隆隴壘	
/ts/	dzeng 增憎曾繪曾甌曾	jing 淨精旌 11(ging1) 井靜晴鶻菁靖晶	dzung 總縱髡宗踪櫻棕 從 2(tsung31) 鯨櫻櫻 琮 ⁵⁶⁾ 縱	
/tʂʰ/	tseng 曾層層	cing 青青情請晴鯖	tsung 從 31(dzung2) 葱 聰叢聰匆	
/s/	seng 僧	sing 星性醒姓猩腥擗省 1(šeng11)	sung 送松鬆訟頌誦鶯聳	
/tʂ/	jeng 正爭整政征掙蒸征 睜爭証徵 2(jy1) 獐烝鉦 症貞 1(jen'2)		jung 衆中重 32(cung24) 鐘種腫忠忠仲鍾冢	

55)「腌」は『広韻』於嚴切，於輒切，於業切である。「頭臉腌臢」(henggenehebi) という語に見られ，この「腌臢」は「骯髒」を表す別な書き方であると考えられる。『合併字彙集韻』でも「腌」を唐韻影母に収めている。

56)「琮」は『広韻』藏宗切である。1箇所のみに見られる。dzungの誤記，あるいは「宗」の類推によるものか。dzとtsの区別がはっきりしている『滿文三國志』において「琮」はtsungよりもdzungと表記される箇所が多い。

/tʂʰ/	ceng 成城承盛 10 (seng8) 撐誠程呈丞乘 5 (seng1) 澄 4(deng1) 鋤 懲撐逞敬賴成脛脛		cung 蟲重 24(jung32) 衝充冲銃寵春崇	
/ʂ/	šeng 聲生牲繩省 11 (sing1) 勝盛 8(ceng10) 陞升聖剩笙甦昇甥乘 1 (ceng5)			
/ʐ/			zung 容 23(yung2) 絨 茸冗戎絨酖榮蓉 2 (yung1) 絨瑩榕隄融 1 (yung5)	
/k/	geng 更庚耕梗羹脛 1 (ging1)	ging 驚經敬京鏡荆景頸 竟矜競莖徑兢獍涇梗警 旌 1(jing11) 脛 1 (geng1)	gung 弓公工共功拱供貢 宮恭攻蚣躬礦煩	giong 迴
/kʰ/	keng 坑	king 輕傾卿擎磬慶鯨頃	kung 空孔恐涇涇	kiong 窮瓊穹
/x/	heng 橫衡哼恒亨	hing 行 124(hang 8) 刑 興形杏幸鏗苻馨	hüng 紅 63(hung1) 哄 烘虹鴻宏薨轟	hiong 胸兄熊雄凶兇
/Ø/		ing 鷹硬營迎應盈繩纓影 鸚 7(yeng1) 英映鶯瑩 櫻穎鴛瘳羸螢聾穎獮	ung 翁 5(weng1) 螞螞 鶯	yung 用永勇擁庸融 5 (zung1) 壘雍癰甬容 2 (zung23) 離鎔踴湧蓉 1(zung2)

参考文献

鋤田智彦 (2019) 「『御製增訂清文鑑』における漢字音」, 『開篇』 37, pp. 101-110
 竹越孝 (2011) 『兼滿漢語滿洲套話清文啓蒙－翻字・翻訳・索引－』, 神戸: 神戸市外国語大学外国語学研究所
 钱曾怡主编 (2010) 《汉语官话方言研究》, 济南: 齐鲁书社

国立公文書館デジタルアーカイブ <https://www.digital.archives.go.jp/>

(2023年 4月10日受理)

【付記】

本稿は, 日本学術振興会科学研究費助成事業 (若手研究) 「満洲語文献による中国北方語音研究」 (課題番号: 20K13022, 研究代表者・鋤田智彦) の研究成果の一部である。